

# 家を開く・地域に開く



東京都墨田区向島の鳩の街通り商店街。80年以上の歴史を持つ商店街には、店をたたみ空き家となった建物も少なくない。こうした空き家を借り受け、住居兼店舗として利用する若い世代がここ数年増えている。都内の会社に勤める30代の女性は、長く空き家となっていた一軒家を借り、2階を自らの居住スペース、1階を図書館として開放。週末を中心に紙芝居や子どもの本の読書会なども開催し、地域の人々と盛んに交流している。

また、自宅の一部を開く動きは新築住宅にも見られる。東京・八王子の郊外住宅地・南陽台に土地を購入し、新築した50代女性は、その一部をレストランとして開放している。

女性は「母が寝たきりなので、外に働きに出ることは難しい。そこで店をやりたい」と思い、一部をやりながら母親の面倒も見られるよう、一部をレストラン仕様にしました。お客さまの中には同じような介護の悩みを抱える方も多く、お互いに相談や情報交換ができるのも心強いですね。

実はここに来る前までは赤坂で長年クラブを経営していた。そのため、顧客からは「南陽台の赤坂」として親しまれていた。このようにシニア層にとっては家を開くことで、自らの人生経験を生かす機会を得るという意義も生まれる。15年前に脱サラして福祉の道に入った60代の男性は、自宅一軒家の1階部分を開放し、小さな子どもとママのための「子育てカフェ」を運営。ここにはママ友同士気軽に会えることができる。そして子どもと「マンツーマン」の日

とはいえ、ビジネスライクな関係になりすぎない。物件の扱いに悩んでいる所有者には、こうした若者ニーズは注目すべきところだろう。

転居先で……  
広がる交流の輪  
自宅にオープンな場所を持つことは、新天地でのコミュニティづくりに

も役立つ。10年に東京から長野県茅野市に移住した一家は、当初は周囲に

を生き、今では貸主と借り主の関係を超えた家族ぐるみの付き合いになった。1日500円というリースナブルな設定金額もあって開設から1000組を超える親子が利用中。中には毎日訪れるうちに、産後うつから立ち直った母親もいるという。

悩める母親にとっては、開かれたこの場所と頼れる男性の存在が支えの一つになっているのかもしれない。

家を開くことによって収益化を図るケースもある。都心に勤める40代男性は11年に、東京・恵比寿に賃貸アパート併用のマイホームを建てた。3階と2階の一部に自身と家族が暮らし、1階と2階に設けた5室を賃貸住宅として貸し出した。現在満室で、家賃収入が住宅ローン返済額を上回っているという。

男性は「入居者の方には長く住んでもらうことができれば、それだけローンの負担も減る。そのためには入居者の方が満足する住まいであることが大事だと思っている」といいます。

豊かさの基準は人とのつながり  
かつて、近所同士がお互いの家を気軽に出入りしたり、隣近所の人々が集まって食卓を囲むことが当たり前の時代があった。戦後、急激な核家族化と居住地域の分離が進み、地元での人とのつながりが薄まる。隣

東京都墨田区向島の鳩の街通り商店街。80年以上の歴史を持つ商店街には、店をたたみ空き家となった建物も少なくない。こうした空き家を借り受け、住居兼店舗として利用する若い世代がここ数年増えている。都内の会社に勤める30代の女性は、長く空き家となっていた一軒家を借り、2階を自らの居住スペース、1階を図書館として開放。週末を中心に紙芝居や子どもの本の読書会なども開催し、地域の人々と盛んに交流している。

また、自宅の一部を開く動きは新築住宅にも見られる。東京・八王子の郊外住宅地・南陽台に土地を購入し、新築した50代女性は、その一部をレストランとして開放している。

女性は「母が寝たきりなので、外に働きに出ることは難しい。そこで店をやりたい」と思い、一部をやりながら母親の面倒も見られるよう、一部をレストラン仕様にしました。お客さまの中には同じような介護の悩みを抱える方も多く、お互いに相談や情報交換ができるのも心強いですね。

実はここに来る前までは赤坂で長年クラブを経営していた。そのため、顧客からは「南陽台の赤坂」として親しまれていた。このようにシニア層にとっては家を開くことで、自らの人生経験を生かす機会を得るという意義も生まれる。15年前に脱サラして福祉の道に入った60代の男性は、自宅一軒家の1階部分を開放し、小さな子どもとママのための「子育てカフェ」を運営。ここにはママ友同士気軽に会えることができる。そして子どもと「マンツーマン」の日

とはいえ、ビジネスライクな関係になりすぎない。物件の扱いに悩んでいる所有者には、こうした若者ニーズは注目すべきところだろう。

転居先で……  
広がる交流の輪  
自宅にオープンな場所を持つことは、新天地でのコミュニティづくりに

も役立つ。10年に東京から長野県茅野市に移住した一家は、当初は周囲に

を生き、今では貸主と借り主の関係を超えた家族ぐるみの付き合いになった。1日500円というリースナブルな設定金額もあって開設から1000組を超える親子が利用中。中には毎日訪れるうちに、産後うつから立ち直った母親もいるという。

悩める母親にとっては、開かれたこの場所と頼れる男性の存在が支えの一つになっているのかもしれない。

家を開くことによって収益化を図るケースもある。都心に勤める40代男性は11年に、東京・恵比寿に賃貸アパート併用のマイホームを建てた。3階と2階の一部に自身と家族が暮らし、1階と2階に設けた5室を賃貸住宅として貸し出した。現在満室で、家賃収入が住宅ローン返済額を上回っているという。

男性は「入居者の方には長く住んでもらうことができれば、それだけローンの負担も減る。そのためには入居者の方が満足する住まいであることが大事だと思っている」といいます。

豊かさの基準は人とのつながり  
かつて、近所同士がお互いの家を気軽に出入りしたり、隣近所の人々が集まって食卓を囲むことが当たり前の時代があった。戦後、急激な核家族化と居住地域の分離が進み、地元での人とのつながりが薄まる。隣

とはいえ、ビジネスライクな関係になりすぎない。物件の扱いに悩んでいる所有者には、こうした若者ニーズは注目すべきところだろう。

転居先で……  
広がる交流の輪  
自宅にオープンな場所を持つことは、新天地でのコミュニティづくりに

東京都墨田区向島の鳩の街通り商店街。80年以上の歴史を持つ商店街には、店をたたみ空き家となった建物も少なくない。こうした空き家を借り受け、住居兼店舗として利用する若い世代がここ数年増えている。都内の会社に勤める30代の女性は、長く空き家となっていた一軒家を借り、2階を自らの居住スペース、1階を図書館として開放。週末を中心に紙芝居や子どもの本の読書会なども開催し、地域の人々と盛んに交流している。

また、自宅の一部を開く動きは新築住宅にも見られる。東京・八王子の郊外住宅地・南陽台に土地を購入し、新築した50代女性は、その一部をレストランとして開放している。

女性は「母が寝たきりなので、外に働きに出ることは難しい。そこで店をやりたい」と思い、一部をやりながら母親の面倒も見られるよう、一部をレストラン仕様にしました。お客さまの中には同じような介護の悩みを抱える方も多く、お互いに相談や情報交換ができるのも心強いですね。

実はここに来る前までは赤坂で長年クラブを経営していた。そのため、顧客からは「南陽台の赤坂」として親しまれていた。このようにシニア層にとっては家を開くことで、自らの人生経験を生かす機会を得るという意義も生まれる。15年前に脱サラして福祉の道に入った60代の男性は、自宅一軒家の1階部分を開放し、小さな子どもとママのための「子育てカフェ」を運営。ここにはママ友同士気軽に会えることができる。そして子どもと「マンツーマン」の日

とはいえ、ビジネスライクな関係になりすぎない。物件の扱いに悩んでいる所有者には、こうした若者ニーズは注目すべきところだろう。

転居先で……  
広がる交流の輪  
自宅にオープンな場所を持つことは、新天地でのコミュニティづくりに

も役立つ。10年に東京から長野県茅野市に移住した一家は、当初は周囲に

を生き、今では貸主と借り主の関係を超えた家族ぐるみの付き合いになった。1日500円というリースナブルな設定金額もあって開設から1000組を超える親子が利用中。中には毎日訪れるうちに、産後うつから立ち直った母親もいるという。

悩める母親にとっては、開かれたこの場所と頼れる男性の存在が支えの一つになっているのかもしれない。

家を開くことによって収益化を図るケースもある。都心に勤める40代男性は11年に、東京・恵比寿に賃貸アパート併用のマイホームを建てた。3階と2階の一部に自身と家族が暮らし、1階と2階に設けた5室を賃貸住宅として貸し出した。現在満室で、家賃収入が住宅ローン返済額を上回っているという。

男性は「入居者の方には長く住んでもらうことができれば、それだけローンの負担も減る。そのためには入居者の方が満足する住まいであることが大事だと思っている」といいます。

豊かさの基準は人とのつながり  
かつて、近所同士がお互いの家を気軽に出入りしたり、隣近所の人々が集まって食卓を囲むことが当たり前の時代があった。戦後、急激な核家族化と居住地域の分離が進み、地元での人とのつながりが薄まる。隣

とはいえ、ビジネスライクな関係になりすぎない。物件の扱いに悩んでいる所有者には、こうした若者ニーズは注目すべきところだろう。

転居先で……  
広がる交流の輪  
自宅にオープンな場所を持つことは、新天地でのコミュニティづくりに

## コミュニティづくり

### 空き家を交流の場に



私設図書館で地域に開く（こずみ図書）

ただけたのだと思いきす」と話す。

日本のお空家は2008年現在、約757万戸。眠らせておくしかない物件の扱いに悩んでいる所有者には、こうした若者ニーズは注目すべきところだろう。

転居先で……  
広がる交流の輪  
自宅にオープンな場所を持つことは、新天地でのコミュニティづくりに

も役立つ。10年に東京から長野県茅野市に移住した一家は、当初は周囲に

を生き、今では貸主と借り主の関係を超えた家族ぐるみの付き合いになった。1日500円というリースナブルな設定金額もあって開設から1000組を超える親子が利用中。中には毎日訪れるうちに、産後うつから立ち直った母親もいるという。

悩める母親にとっては、開かれたこの場所と頼れる男性の存在が支えの一つになっているのかもしれない。

家を開くことによって収益化を図るケースもある。都心に勤める40代男性は11年に、東京・恵比寿に賃貸アパート併用のマイホームを建てた。3階と2階の一部に自身と家族が暮らし、1階と2階に設けた5室を賃貸住宅として貸し出した。現在満室で、家賃収入が住宅ローン返済額を上回っているという。

男性は「入居者の方には長く住んでもらうことができれば、それだけローンの負担も減る。そのためには入居者の方が満足する住まいであることが大事だと思っている」といいます。

豊かさの基準は人とのつながり  
かつて、近所同士がお互いの家を気軽に出入りしたり、隣近所の人々が集まって食卓を囲むことが当たり前の時代があった。戦後、急激な核家族化と居住地域の分離が進み、地元での人とのつながりが薄まる。隣

とはいえ、ビジネスライクな関係になりすぎない。物件の扱いに悩んでいる所有者には、こうした若者ニーズは注目すべきところだろう。

転居先で……  
広がる交流の輪  
自宅にオープンな場所を持つことは、新天地でのコミュニティづくりに

## セキスイハイム

もっと便利なスマートハイムへ。ハイムが実現しました。

暮らしのエネルギー問題に真剣に取り組み、経済性と快適性のバランスの取れた暮らしをご提案してきたセキスイハイム。

今回、新たに、蓄電システム「e-Pocket」を搭載した、『進・スマートハイム』が誕生しました。

いままでの「電気を創る」「電気が見える」だけでなく、「電気を貯める」という新しい発想をプラスし、節電効果もより高く、万一の際にも安心して暮らして頂けるシステムを構築しました。

もっと便利なスマートハイムへ。未来型住宅の実現の先駆けとなる商品として、ハイムからご提案します。

独自のコンサルティングをプラスしたHEMS<sup>※2</sup>が、わが家に最適な節電方法をアドバイス。

※2・ホーム・エネルギー・マネジメント・システム

もっと「使える」スマートへ

SMARTHEIM

High capacity PV

SMARTHEIM NAVI

e-Pocket

powered by Consulting HEMS

ソーラー住宅No.1<sup>※1</sup>。大容量ソーラーでたっぷり電気を創る。

発電<sup>NEC</sup>して余った電力やおトクな深夜電力を、かしく蓄電する。

※1・太陽光発電システム搭載住宅（約170坪）のセキスイハイムグループ建設棟数164,431棟（2012年12月末現在）は、東京10万戸（積水ハウス調べ）